

「専門資料の新たな動向」

★本日のねらい：「専門資料の流通と利用」に関する新たな動向，特にインターネット上での発信にかかわるものについて説明する。

※ここで述べる状況は「現在進行形」のものであり，今後変動する可能性もあるが，ひとまず，「3つのキーワード」を理解しておくこと。

◆はじめに

*今回の授業の中盤（第6回～第9回）では，「百科事典データベース」も含め，主に「インターネット上の二次資料」について紹介してきた。

*しかし，一次資料の本文もインターネット上で流通が進み，専門資料の性質が変化する兆しもある。

◆キーワードその1：(1) _____

* (1)とは：電子的形態で本文が提供される雑誌。特に，学術的内容をもつものを指す。

（メールマガジンなど一般的な内容をもつものは，(1)には含まないのが通例）

・形態としては，ネットワーク上のもの，パッケージ化されたもの（CD-ROM や DVD-ROM）があるが，多くは前者。

・(1)の多くは有料であり，データベースと同様に，たいていは(2) _____ を通じてのアクセスとなる。（個人契約を可能にしている場合もある）

* 1990年代後半より，インターネットの普及に伴い，多くの学術雑誌は電子ジャーナル（ネットワーク上でのもの）の形態をとるようになった。

（ただし，そのほとんどは「冊子体」のかたちでの発行も残している）

・同時に，大学図書館，研究機関の図書館も，機関契約を通じて電子ジャーナルを購入している。

（日本国内では，大学図書館のうち約半数が電子ジャーナル購入）

→この場合，（特に国際的な電子ジャーナルについて）ひとつひとつの電子ジャーナルについて契約するのではなく，分野ごとに，複数の電子ジャーナルの「パッケージ」を「まとめ買い」するケースが多い。

・「パッケージ」の例：エルゼビア（Elsevier）社の「Science Direct」

* ネットワーク上での電子ジャーナルの特徴

・ 図書館に行かなくてもアクセスできる。

・ データベースと違い，内容（個々の論文）は固定される。

・ いったん契約を打ち切る（購読をやめる）と，その機関では過去の分も含めてアクセスできなくなってしまう。

（よって，多くの機関は電子ジャーナルと同時に，冊子体での雑誌の購入も続ける）

* 日本国内での電子ジャーナル (またそれに似た機能)

・ CiNii : 有料 (機関契約も個人契約もあり), もしくは無料で学术论文の本文が見られる。
(紀要論文については無料の場合が多い)

・ J-STAGE (科学技術振興機構 <http://www.jstage.jst.go.jp/>)

: 主に理系の学会誌, 予稿集などの本文が見られる。多くは無料。

※ CiNii, J-STAGE の両方で見られる論文もある。要は「見せ方」の違い。

◆ キーワードその 2 : (3) _____

* (3) とは : 学術情報の (もっぱらインターネット経由での) 自由な流通を目指すしくみ。

* 主な目的は, 学術出版社 (多国籍企業としての性格を帯びる) による国際的学術雑誌の(4) _____
への対抗。

・ 上述した「エルゼビア社」のほか, 少数の学術出版社が学術雑誌の市場を(4)している状態が, この
10 数年のうちに進行している。

このため, 国際的学術雑誌の価格は (電子ジャーナルの分も含め) 急激に上昇している。

(1986 年から 1999 年の間に年間購読料が 200%以上増加, との調査結果あり)

↓

* アメリカの大学・研究機関の図書館団体が, (3)のための運動を起こす。→全世界に波及。

・ 具体的には, より低価格の学術雑誌の創刊に向けて学会・出版社などに働きかける。また, 後述の「機
関リポジトリ」設置を各大学に働きかける。

* 政府の政策として(3)が進行する側面もある。

・ 「政府からの援助を受けて成される研究成果としての学术论文は, 無料公開によって国民に還元すべ
きだ」という主張が背景にある。

・ 特にアメリカでは医学研究についてそのような主張が根強い。

→ アメリカ政府の方針により, 多くの医学論文は (学術雑誌等に掲載されたものであっても) イン
ターネット上で全文が無料公開される。

: 「PubMed」を通じてアクセス可能。

◆ キーワードその 3 : (5) _____

(「機関レポジトリ」とも言われる。英語表記は「Institutional Repository」。

「リポジトリ」「レポジトリ」とは「保管庫」の意味)

* (5) とは : 「オープンアクセス」を実現させるための手段のひとつで, 大学などの研究機関が自機関の
研究成果をデジタル形態で蓄積・保管し, インターネット上で発信するしくみ。

- ・ 学術論文(*), 紀要論文, 学位論文, 研究報告書, 授業での資料などを公開。
- ・ 大学図書館が(5)の管理・運営に当たることが多く, (5) = 「ネット図書館」という見方もある。

(*学術論文については, もとの著者が出版社に著作権を譲渡する契約を結んでいる (そうすれば出版社としては論文の取り扱いがしやすい) 場合が多いため, 機関リポジトリでの公開にあたっては, 出版社からの(6) _____ を得る必要がある。

- ・ ただし, 「機関リポジトリでの公開の場合は出版社からの(6)は不要」という点が契約で定められている場合もある。
- ・ 学術論文以外の場合も, 公開にあたっては著作権に留意する必要あり。

* 日本国内での機関リポジトリは, 現在, 試験公開中のものも含め 24 の大学・研究機関にある。

(リスト <http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html>)

- ・ 国立大学 (18 校) で構築が進む。: 「研究成果の地域への還元」「地域に対する大学の存在意義のアピール」という位置付けもある。
- ・ 早くから構築を進めてきたのは千葉大学, 北海道大学。
- ・ 私立大学では早稲田・慶応を含めた 5 校にある。(東洋大にはない)

【次回予告】

- ・ 授業の総まとめ。「専門資料」の今後は。図書館として, 利用者としてどう接するか。